

福岡県の主な農産物の生産状況

令和3年5月14日現在
(専技情報より抜粋)

◇早生水稲（夢つくし、コヒカリ）◇

早期水稲の田植えは平年並で、5月15日までに終了しました。（最盛期は4月下旬）

5月上旬の強風により、活着はやや遅れ、葉先の傷み等が一部で見られます。浅水管理で初期生育を確保しましょう。

苗の活着を確認し、雑草対策を適期に行いましょう。

◇普通期水稲◇

（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）

現在、6月上中旬植えの播種及び育苗作業が行われています。

田植えは、「夢つくし」で6月上中旬、「元気つくし」で6月中旬、「ヒノヒカリ」で6月下旬を中心に行われる見込みです。

「実りつくし」の田植えは6月中旬の見込みです。

育苗管理では、いもち病やもみ枯れ細菌病などの病害対策を徹底しましょう。出穂期以降の高温による品質低下を防ぐため、各品種の移植適期を厳守しましょう。

◇麦類◇

大麦の収穫は、平年に比べ7日程度早く、5月9日から開始されています。

11月下旬播きの大麦・裸麦で5月15日頃、小麦で5月25日頃から収穫が本格的に始まる見込みです。

4月下～5月上旬の降雨により、一部で倒伏がみられるが登熟は良好。穂数は平年並み～やや多く、収量は平年並み～やや多い見込みです。

排水溝の手入れを行い、排水を徹底しましょう。収穫前に、カラスノエンドウなどの雑草を除去しましょう。

降雨が多いため、カントリーエレベーターは計画的な荷受体制を整えましょう。

倒伏や穂発芽のみられるほ場は別集荷を行いましょう。

穀粒水分を確認し、適期に収穫を行いましょう。

◇イチゴ◇

現在、4番果房を収穫中です。4番果房は生育のバラつきが大きく収穫も集中せず、4月下旬以降の出荷量は前年より少なく推移しました。出荷終了は平年並みの5月中下旬の見込みです。

親株の生育は概ね順調です。乾燥傾向のほ場ではやや遅いです。

果実の品質低下防止のため、ハウス換気を徹底しましょう。収穫が終了したほ場は速やかに片づけましょう。

親株の炭疽病、ハダニ類等の病害虫対策、肥培管理を徹底しましょう。

◇冬春ナス◇

出荷量は4月下旬から増加し、4月末から5月上旬にピークを迎えた。次の出荷ピークは5月下旬となる見込みです。「PC筑陽」は、草勢の変動が大きいと果実品質に影響するため、引き続き、草勢に応じた栽培管理に留意しましょう。病害虫は、うどんこ病の他、灰色かび病やすすかび病が散見され、一部で青枯れ病が発生しています。コナジラミ類は天敵利用により発生が抑えられているが、ハダニ類が増加しています。

ハウス換気や灌水、摘心・摘葉等の管理作業を徹底し、草勢維持に努めましょう。ハダニ類の対策を徹底しましょう。梅雨期に入ると、灰色かび病の発生が助長されるため、被害花や被害葉は除去し、初期からの対策を徹底しましょう。

◇温州ミカン◇

開花盛期は、平年より7～10日早く、県南地域では極早生・早生が4月26～27日、普通温州が4月30日～5月1日です。着花数は、極早生・早生は並み～やや多く、普通は並み～やや少ないです。なお、生育の前進化に対応し、訪花昆虫や灰色かび病等の対策を平年より早めに実施しましょう。

今後、着花状況に応じた栽培管理を図るとともに、5月中下旬の生理落果の状況等に留意しましょう。

着花が多い園地では、樹勢回復のための葉面散布、摘果剤利用による早期摘果、次年度結果母枝確保（除葉処理、有葉花摘蕾等）の徹底を図りましょう。

着花が少ない園地では、結実確保対策（被さり枝の除去等）を徹底しましょう。

◇カキ◇

現在、開花盛期～開花終期です。開花盛期は4月28日～5月10日で昨年・平年より5～10日程度早いです。

雌花の着花数は、園地によってばらつきはあるが、平年並～やや多いです。

カイガラムシは、発生消長に基づき幼虫の発生時期に対策を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

低温の影響で1～2月の出荷量が減少したものの、3月以降回復し、1～4月の出荷量は昨年よりも増加しました。単価については1～2月は昨年よりも低かったが、3月以降は小売り需要があり、安定した単価で推移しました。単価の高い時期に出荷量が多かったため、前年よりも平均単価、販売金額は増加したが、出荷量、販売金額は過去5年平均よりも下回りました。

秋出し作型の播種、種子冷蔵処理が4月下旬以降に開始されます。

6～7月出荷作型は、梅雨前に灰色かび病対策を徹底しましょう。

7～8月定植では、ほ場準備を早めに行い、土壌消毒等を確実に実施しましょう。

◇カーネーション◇

3月の単価が高かったため、平均単価は前年よりも高くなったが、栽培面積の減少等により、出荷量、平均単価とも過去5年平均を下回りました。

次作の病害虫対策として土壌消毒等を確実に実施しましょう。

◇茶◇

一番茶の摘採は、5月12日時点で、平坦地では終了、山間地では9割程度終了しました。

4月の出荷量は、2、3月の高温の影響で生育が早く摘採が早まったこと等から、平年より多いです。

ハダニ、チャトゲコナジラミ、クワシロカイガラムシ及びチャノキイロアザミウマの対策を適期に実施しましょう。

樹勢の低い園や芽伸びが悪い園では、一番茶収穫終了後に更新せん定を行います。

◇肉用牛◇

和牛枝肉単価は、輸出取引が順調であることや大型連休前の需要を見込んで堅調に推移し、コロナ禍の影響を受けた前年価格と比べると153%と上昇しました。交雑種見合いの省令価格も、輸入牛肉の調達が不安定なことから交雑種やホル雄の引き合いが強まり、前年比130%と上昇しました。

豚枝肉価格は、底堅い内食需要で先月並みの推移だが、コロナ禍による先行き不安から前年比では84%と低下しました。

鶏卵価格は、内食需要が高まり、鳥インフルエンザ発生により加工在庫が少ないため、前年比121%と上昇しました。

5月から日中の暑熱ストレスが懸念されるため、早めの暑熱対策（換気扇、給水施設等の能力確認と改善、屋根の断熱処理など）を喚起しましょう。

また、国内で続発した豚熱や鳥インフルへの防疫対策を含め、畜舎内消毒等、農場の衛生管理を徹底しましょう。